

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市市民ミュージアム	評価対象年度	令和2年度
事業者名	アクティオ・東急コミュニティー共同事業体 代表者 アクティオ株式会社 代表取締役社長 淡野 文孝 東京都目黒区東山1-5-4 KDX中目黒ビル6階 構成員 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 雑賀 克英 東京都世田谷区用賀4-10-1	評価者	市民文化振興室長
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組

利用実績	<p><補足事項> 市民ミュージアムの被災について 令和元年東日本台風により地階が浸水し、施設及び収蔵品に甚大な被害が発生した。これに伴い、市と指定管理者間において「川崎市市民ミュージアムの管理運営に関する基本協定書に係る覚書」(以下、「覚書」という。)を締結し、「川崎市市民ミュージアムの管理運営に関する基本協定書」に掲げる指定管理業務のうち、実施が困難なものについては、業務の全部又は一部を免除し、収蔵品レスキューを最優先で取組むこととした。令和2年度は昨年度の被災後に引き続き、被災対応として被災収蔵品のレスキュー活動を進めながら、アウトリーチや外部施設を活用して、通常の博物館活動も可能な範囲で実施した。</p>				
	【総利用者数】	令和2年度 5,298人	令和元年度 177,284人	平成30年度 302,999人	平成29年度 282,211人
	(1) 常設展示	0人	54,025人	127,837人	123,249人
	(2) 企画展示 有料	0人	35,781人	38,635人	49,219人
	無料	0人	61,316人	89,243人	66,479人
	(3) 映像ホム 有料	0人	3,196人	7,482人	8,909人
	無料	0人	1,922人	5,054人	4,604人
	(4) ミニホム	0人	725人	876人	1,255人
	(5) 館内イベント・講座等	0人	4,726人	14,593人	12,971人
	(6) ミュージアムアトリー(映像)	0人	1,437人	2,802人	3,597人
	(7) ミュージアムアトリー(図書)	0人	10,104人	10,748人	7,693人
	(8) ミュージアムアトリー(閲覧)	0人	19人	32人	27人
	(9) 研修室等利用者	0人	605人	1,038人	1,062人
	(10) ミュージアムアトリー-1	0人	0人	3,179人	2,083人
	(11) ミュージアムアトリー-2	0人	0人	44人	0人
	(12) 館外展示・出張プログラム等	5,298人	3,428人	1,436人	1,063人
	【企画展示】	令和2年度 1事業 5,398人	令和元年度 10事業 96,083人	平成30年度 21事業 133,315人	平成29年度 18事業 115,698人
	企画展	-	8事業 93,616人	17事業 127,878人	15事業 110,100人
	他団体の展示等	1事業 5,398人	2事業 2,467人	4事業 5,437人	3事業 5,598人
	【かわさき市美術展の応募数】	令和2年度 6部門 373点	令和元年度 6部門 315点	平成30年度 6部門 231点	平成29年度 6部門 266点
	【映画上映】	令和2年度 -	令和元年度 8事業 3,941人	平成30年度 16事業 9,243人	平成29年度 15事業 11,136人
	上映数・作品数	-	92回 77作品	173回 83作品	174回 96作品
	【教育普及事業】	令和2年度 12講座 72回 7,331人	令和元年度 64講座 218回 21,680人	平成30年度 81講座 277回 11,320人	平成29年度 76講座 254回 10,143人
	社会科教育推進事業	64校(7,292人)	47校(4,781人)	85校(9,390人)	88校
	ボランティア登録者数	12名	49名	49名	43名
収支実績	<p>(1) 収入 487,124千円 (前年: 620,051千円) (2) 支出 474,052千円 (前年: 604,215千円) (3) 収支差額 13,072千円 (前年: 15,836千円)</p>				
サービス向上の取組	<p>【地域との連携】 ○市民ミュージアムを含め9つの等々力緑地内施設関係者で構成し、月1回開催する「パルク・ド・トロキ会議」(4、5、7月は新型コロナウイルスの影響等により中止)にて各施設で開催する事業の情報共有を行った。また、とどろきアリーナの協力により、「オンラインショップ」の商品の紹介をとどろきアリーナで実施した。なお、毎年等々力緑地で開催される中原区民祭は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となった。</p> <p>【その他】 ●地域事業者との関わりを重視し、市内の「社会福祉法人 なごみ福祉会 夢花工房」が制作した商品などをミュージアムショップ(オンライン)で販売した。</p>				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度・事業成果	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4 (R1: 4)	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	4 (R1: 4)	6.4
		当初の事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由)				
<p>【利用者満足度①—通常分】 ○「第54回かわさき市美術展」、「オンラインショップ」、「社会科教育推進事業」にてアンケート(ウェブ含む)の実施により、参加者等の満足度やニーズ、意見・要望などを把握するとともに、アンケート結果については、事業担当者及び学芸部門長と情報共有を行った。 ○「第54回かわさき市美術展」をミュージアムホール企画展示室で実施したが、アンケートにおいては、「場所がわかりにくく迷ってしまった 入り口付近にポスターをはるなど、案内版がほしかったです。」という意見をいただき、次回開催する際は、案内板の設置等を実施するため、事前に会場施設管理者と協議することとした。また、アンケート(回答数219件)の満足度では、「大変満足」「満足」の割合が75%(昨年度:76%)となった。</p> <p>【利用者満足度②—被災対応分】 ●該当なし</p> <p>【事業成果①—通常分】 ○新型コロナウイルス感染症の拡大により全国的に公募展が中止となるなか、感染防止対策を実施し、「第54回かわさき市美術展」をミュージアムホール企画展示室で開催した点は評価できる。 ●例年開催している「昔のくらしと道具展」については、市民ミュージアムで開催が出来ないことから東海道かわさき宿交流館との共催により、12月8日から2月28日まで開催し、場所や展示規模、内容等は異なるものの、指定管理者で定めた入場者目標値1,000人に対し5,398人が入場した。当館での実施ができない状況で、東海道かわさき交流館で共催により開催し博物館事業の継続に努めた点、及び入場者目標値を上回った点は評価できる。</p> <p>【事業成果②—被災対応分】 ●被災収蔵品レスキュー活動として、収蔵庫からの搬出作業及び専門家の助言をもとに、適切に応急処置を実施した。また、被災収蔵品の燻蒸を効率的に実施するために、館内のラウンジから企画展示室2へ拡充して移設するなど、応急処置を速やかに行うため、館内を効果的に活用した。その後、収蔵品の状態に応じ適切に保管するため、温湿度管理が可能な外部倉庫等で保管した。 ●新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年3月下旬頃から外部支援団体からの支援者の派遣が一時的に中断し、人員不足となった状況においても、6月19日までに搬出を完了させたことは評価できる。 ●収蔵庫から搬出した約23万点の被災収蔵品に対して、洗浄、乾燥、燻蒸等の応急処置を適切に実施し、大型台風の到来シーズン前の9月末までに外部倉庫への搬出を概ね完了させた。外部支援団体の専門家等と被災収蔵品の各分野ごとに応急処置や搬出方法について調整を行い、作業員の安全や作業環境を整えながら効率的に外部倉庫への搬出を実施したことは評価できる。 ●外部倉庫に搬出した被災収蔵品のうち、優先度の高い作品や被災状況を考慮し、市と協議のうえ、修復作品の選定についての助言や著作権者への確認など、市が契約する修復委託についての調査、助言等を適切に行った。また、冷凍保管資料の乾燥作業について、外部の支援団体の協力を得ながら、乾燥法のマニュアルを作成し効率的な作業工程を確立した。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4 (R1: 4)	6.4	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	4 (R1: 4)	3.2	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3 (R1: 3)	2.4	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	【効率的・効果的な支出①ー通常分】 ●新たに立ち上げたオンラインショップが好評だったため、ミュージアムショップの売り上げが予算を上回り(予算比で586千円増)仕入れが増えた事により、ミュージアムショップ事業費支出が予算比で144千円の増となったが、支出に見合うショップ収入を得た点が評価できる。 ○企画展事業の収入は予算比で258千円増となったが、支出は予算比で3,417千円の減となり、より少ない経費で予算を上回る収入を得た点が評価できる。 ○「第54回かわさき市美術展」、「オンラインショップ」の広報を行う際に川崎記者クラブへの報道投込による新聞掲載や市内小・中学校へのチラシの配布だけではなく、市政日より、市内広報掲示板・広報コーナー、市ホームページ、かわさきイベントアプリへの掲載等、本市が持つ広報媒体を積極的に活用するとともに、公式ホームページ及びブログの更新や、ツイッターとフェイスブック、インスタグラムなど多様な媒体を活用し、かつ経費がかからないながらも高い効果が見込める広報に努めた。					
	【効率的・効果的な支出②ー被災対応分】 ○設備等の不具合事項及びレスキュー作業に要する設備を洗い出し修繕計画表にまとめ、市との定例会議等で協議・検討したうえで、消防設備や空調設備等、緊急度の高い案件の優先的な修繕及び収蔵品レスキューに必要な燻蒸庫の拡充を行い、レスキュー作業の効率的な推進に資する修繕費の執行に努めた。					
【収入の確保①ー通常分】 ●ミュージアムショップでは、新たに立ち上げたオンラインショップにて過去に開催した企画展図録や紀要、雑貨、市内の「社会福祉法人なごみ福祉会 夢花工房」が製作した商品等を取り揃えている。新たに実店舗に代わるオンラインショップを立ち上げたため、予算比586千円増となった。 ●「タカシマヤ文化基金」(1,000千円)を活用し、広報活動の一環として「2020年度川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録集」を刊行し、HPでも公開した。当該助成金の申請を行い、採択を受け、収入を確保した点は評価できる。						
【収入の確保②ー被災対応分】 ●外部助成団体から市が助成を受けるために、各種助成金の調査及び市が助成金の申請書を作成する際の助言を行った。						

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	指定管理業務や自主事業が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4 (R1: 4)	9.6
		基本理念等に基づき、適切なサービスが提供されたか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3 (R1: 3)	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	3 (R1: 3)	3.6
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
<p>【適切なサービスの提供①ー通常分】 ○新聞、雑誌、市政だよりへの掲載、公共機関及び学校等へのパンフレットの配布、屋内外への看板設置、交通広告やホームページ・ブログ等、多様な媒体を活用した広報を展開するとともに、SNSにおいては、ツイッターから103回、フェイスブックから75回、インスタグラムから49回の情報発信(「第54回かわさき市美術展」、「オンラインショップ」)を行った。 ○社会科教育推進事業は、出張授業、体験グッズ貸出、ワークブック配布にて64校に対応した。 ●ミュージアム川崎シンフォニーホール企画展示室で開催した「第54回かわさき市美術展」では、額装家を講師に招きオンラインセミナー「額縁のお話」を関連事業として実施(公開期間:12月4日から3月31日 閲覧数:311回)し、額装の機能と役割、額縁の選び方や飾る方法などの情報発信を行った。アンケートでは「大変満足」「満足」が90.5%だった。 ●レスキュー報告プロジェクトとして、映像ドキュメンタリー「川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録」の制作、「2020年度川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録集」の刊行及びHPへの公開を行った。特に動画については4,971回再生(令和2年12月24日から令和3年3月31日)があり、「今後の美術館レスキューにおける貴重な資料となるだろう」といったコメントが寄せられた。また、美術館・博物館の被災とレスキューの記録として各種報道機関や美術館・博物館関係者へ情報発信を行った。</p> <p>【適切なサービスの提供②ー被災対応分】 ●新型コロナウイルス感染症の影響により、レスキュー活動に必要な装備品である防護マスクや防護服、手袋が入手が困難になり、金額が高騰したが、レスキュー活動を継続できるよう、様々なルートを通じ、極力安価なものを探し、入手した。また、手袋や長靴などを随時洗浄したり、各種装備品をわかりやすく陳列したりするなどし、支援者等がレスキュー活動以外で極力ストレスを感じないような環境を構築した。 ●外部支援団体の支援者等が来館した際、事前に館の現況や用意している装備品の内容、館で実施しているカビや感染症対策を把握できるよう、2019年度に作成した「川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー作業に係る連絡事項(全部門共通)」を専門家等と調整しながら随時更新し配布した。</p> <p>【業務改善によるサービス向上①ー通常分】 ●ミュージアムショップでは、新たに実店舗に代わるオンラインショップを立ち上げ、過去に開催した企画展図録や紀要、雑貨、市内の「社会福祉法人 なごみ福祉会 夢花工房」が製作した商品等を販売した。</p> <p>【業務改善によるサービス向上②ー被災対応分】 ●被災収蔵品のレスキューについて、市への修復作品数の報告や写真の提供等を適切に行った。</p> <p>【利用者の意見・要望への対応①ー通常分】 ●「第54回かわさき市美術展」(219件)、「オンラインショップ」(3件)、「社会科教育推進事業」(19件)にてアンケート(ウェブ含む)の実施により、参加者等の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。上記のアンケートに関しては担当者及び部門長で情報共有を行った。「第54回かわさき市美術展」のアンケートでは、「場所がわかりにくく迷ってしまった 入り口付近にポスターをはるなど、案内版がほしいです。」という意見をいただき、次回開催する際は、案内板の設置等を会場施設と協議し、検討することとした。</p> <p>【利用者の意見・要望への対応②ー被災対応分】 ○休館により利用に供しなかったが、寄附者からは、「川崎市市民ミュージアムの復活を待っています。」「収蔵品の修復、施設の復旧再開に向けて尽力されている方々に心より敬意と感謝を申し上げます。」などといった応援メッセージや御意見を多く頂いた。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	3 (R1: 3)	3.6
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3 (R1: 3)	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか	4	3 (R1: 3)	2.4
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3 (R1: 3)	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	4	3 (R1: 3)	2.4
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	2 (R1: 2)	0.8
(評価の理由)					
<p>【適正な人員配置】 ●収蔵庫からの搬出、応急処置、修復などの進捗状況に合わせ、修復に関する専門知識を有する職員の新規採用等により人員体制を確保し、的確にレスキュー作業に対応した。 ○学芸員等(4名)の退職が見られるが、適宜職員を新規採用し、労働条件や労働環境を整備するなど、安定的な運営につながるよう効果的な組織体制を維持した。</p> <p>【連絡・連携体制】 ○現地対策本部会議を毎週2回開催し、レスキュー作業の進捗や課題等について所管課と調整を行うなど、被災収蔵品レスキューの取り組みに関する連絡・連携体制が十分に図られている。</p> <p>【担当者のスキルアップ】 ●「被災資料の真空凍結乾燥講習会」、「古文書修復ワークショップ」等の研修会を開催し、収蔵品レスキューが効率的に進められるように知識及び技術の習得に努め、レスキュー作業に係る学芸員のスキルアップに取り組んだ。</p> <p>【安心への取組】 ●風水害マニュアルの策定を行い、マニュアルに基づく状況付与・情報収集伝達訓練を6月から11月にかけて、毎月1回実施した。また、土のうの設置訓練を4月から12月にかけて15回実施した。また、令和2年10月10日の台風上陸予報への対応として、風水害マニュアルに基づき事前に土のうの積上げ、カラーコーンの撤去、バリケードの確認等を行い、ユニットハウス内で保管していた作品は、梱包して市民ミュージアムの3階に移動させた。</p> <p>【環境負荷の軽減】 ○令和元年度に続き、館内のLED化など被災後はレスキュー作業を優先するため、環境に配慮した取り組みを積極的に実施できなかった。また、バックヤードや職員専用の階段等のこまめな消灯、平日のエスカレーターの停止等、消費電力の低減と環境負荷の低減を図るとともに、PPCにはエコ紙を採用し消耗品の調達はエコ商品を優先した。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	4 (R1: 4)	14.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	収蔵品管理	収蔵品は仕様書等に基づき、適切に保存・管理されているか	6	3 (R1: 3)	3.6
(評価の理由)					
<p>【施設・設備の保守管理】 ○設備等の不具合事項及びレスキュー作業に要する設備を洗い出し修繕計画表にまとめ、市との定例会議等で協議・検討したうえで、消防設備や空調設備等、緊急度の高い案件の優先的な修繕及び収蔵品レスキューに必要な燻蒸庫の拡充を行い、レスキュー作業の効率的な推進に資する修繕を実施した。</p> <p>【清掃業務】 ○日常清掃、定期清掃及び除カビ、防カビ対策により清潔な美観と快適な環境を維持している。</p> <p>【警備業務】 ○常駐警備(24時間×1ポスト、日勤×1ポスト)、機械警備、巡回警備を適切に実施し、事件・事故・犯罪等を未然に防止できている。</p> <p>【収蔵品管理—被災後】 ●既存台帳のデータベース化について、約6割を台帳へ登録した。収蔵庫から出庫した収蔵品の確認を行うため出庫管理表を作成し、収蔵庫からの搬出・応急処置を実施した。応急処置が完了した収蔵品については、外部倉庫に搬出し、定期的に収蔵品の状態確認を行うなど適切に管理を行った。</p>					

4. その他加算

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加算	市の政策課題への取組	例) 第三者へ一部の業務委託を行う際、市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力 など	5	3 (R1: 3)	3
	(評価の理由)				
<p>【通常分】 ○清掃業務、警備業務などの施設管理業務において市内中小企業を活用している。</p> <p>【被災対応分】 ○令和元年東日本台風による想定外の内水氾濫により地下収蔵庫が浸水し、施設及び収蔵品に甚大な被害が発生したが、指定管理業務については市と覚書を締結し、収蔵品レスキューを最優先で取組むこととした。これにより、令和元年度に引き続き、施設復旧作業、収蔵庫からの被災収蔵品の搬出及び応急処置等の収蔵品レスキュー作業を実施した。</p>					

5. 総合評価

評価点合計	74.6	評価ランク	B
-------	------	-------	---

(R1: 74.6)

(R1: B)

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市市民ミュージアムは、「考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等に資するとともに市民相互の交流を推進し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことを目的として設置した博物館・美術館の複合施設である。

本施設は、昭和63年11月に開館し、平成29年度に市の直営管理から施設管理・学芸業務ともに指定管理者制度を導入した。

指定管理者を募集するにあたり、本市が仕様書で「指定管理者に求めること」として、①「民間事業者としての柔軟な発想及び獨創性、さらにはこれまで蓄積してきた研究成果を引き継ぎ、サービスの向上や魅力ある企画の実現など、事業の充実と新たな来館者の創出に向けて創意工夫するとともに効率的な運営に努めること」、②「指定管理者には優れたマネジメント力、博物館・美術館の専門分野に関する豊かな知識と高度の専門性の継続と蓄積」、③「市文化施設の管理運営にあたる者として、特定の利益や価値に左右されない、高い公益性と信頼性」の3点を示していることに加え、④「覚書において「市と十分に調整を図りながら収蔵品レスキューに最優先で取り組むこと」としていることから、全体評価に当たってはこれら4点の視点に基づき評価する。

①新型コロナウイルス感染症の拡大により全国的に公募展が中止となるなか、感染防止対策を実施しながら「第54回かわさき市美術展」をミューザ川崎シンフォニーホール企画展示室で開催した点や例年開催している「昔のくらしと道具展」については、市民ミュージアムで開催が出来ないことから東海道かわさき宿交流館との共催により、開催し、場所や展示規模、内容等は異なるものの開催した点は評価できる

②被災後のレスキュー活動で蓄積した経験や外部支援団体から得られた知見などを記録として残すため、レスキュー活動1年間のレスキュー活動を振り返る動画や記録集として作成及びHPで公開した。また、美術館・博物館の被災とレスキューの記録として各種報道機関や美術館・博物館関係者へ情報発信を行った。

③かわさき市美術展の機会に合わせてオンラインセミナー「額縁のお話」(無料)を実施し、情報発信を行ったことや常設展が実施できない中、東海道かわさき宿交流館との共催の「昔のくらしと道具展」(無料)にて開催した取組など、集客事業に偏重することなく、地域との連携や市民相互の交流の促進について、指定管理者の創意工夫が発揮されている。

④さらに、施設復旧・レスキュー作業については、市や外部支援団体等と調整しながらレスキュー作業に必要な設備等を復旧させ、被災収蔵品の収蔵庫からの搬出を6月に終え、応急処置を適切に実施し、9月末までに外部倉庫への搬出を概ね完了させた。また、外部倉庫に搬出した被災収蔵品について、優先度の高い作品や被災状況を考慮し、市が契約する被災収蔵品の修復委託に係る助言等を行ったことで、収蔵品レスキューがスムーズに実施された。

以上のことから、令和2年度は適正に指定管理業務が実施されたものと考ええる。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

指導事項

- 学芸員等の入替えがあり経験年数が浅い職員もいることから、適宜研修等を実施しスキルアップを行うとともに、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながる効果的な組織体制の維持に取り組むこと。
- 指定管理期間の終期までに収蔵品管理台帳のデータベース化を完成させること。

要請事項

- 外部支援団体などからの協力を得ながら、効率的・効果的な被災収蔵品レスキュー作業を継続して進めていくこと。
- 開館以来継続的に行ってきた地域の歴史・伝統・文化に関する資料の収集・調査研究活動を進展させるとともに、市内の美術館等と連携・協力しながら、被災を免れた収蔵品も含め、修復が完了した作品などを紹介し、被災収蔵品レスキューの成果を市民等と共有するなど、ミュージアムが有する資産を活用するコレクション展を開催すること。開催にあたり、新型コロナウイルス感染症対策もふまえて、ホームページ等のオンラインも含めた開催とすること。